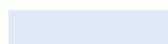
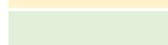


# 北海道新幹線新小樽（仮称）駅周辺まちづくり計画 アクションプラン

## 検討用資料 【抜粋版】

アクションプランの検討用として、令和2年8月に開催した  
専門部会（街並み・交通アクセス部会、観光・産業振興部会）で  
配布した資料の抜粋版です。

### 【各取組の概要（案）の色分けについて】

- |   |                        |
|---|------------------------|
|  | ・・・街並み・交通アクセス部会で検討する項目 |
|  | ・・・観光・産業振興部会で検討する項目    |
|  | ・・・上記の2部会で検討する項目       |

## アクションプランで取組む概要一覧

### I. 2次交通対策（全37の取組(案)）

基本方針	項目	取組の概要(案)	部会		
			街並	観光	
1. 利便性の高い2次交通網の構築	(1)バス交通の充実	ア. 現在の路線バスの強化	○		
		イ. 新駅と市内中心部を結ぶ専用シャトルバスの運行	○		
		ウ. 「おたる散策バス」の経由地への追加	○		
		エ. 新駅と朝里川温泉やスキー場を結ぶバス交通の確保	○		
		オ. 既存の路線バス的高速便の強化	○		
		カ. 団体バス利用者への対応	○		
		キ. 外国人観光客にも対応したバスの運行	○		
	(2)タクシーサービスの充実	ア. 乗合タクシーの運行	○		
		イ. 外国人観光客にも対応した観光タクシーの運行	○		
		ウ. IoTを活用した配車システムの導入	○		
	(3)レンタカーサービスの充実	ア. レンタカー事業者の誘致	○		
		イ. レンタカーによる周遊性の向上	○		
(4)レンタサイクルの充実	ア. 可能性調査を踏まえたレンタサイクル拠点の設置	○	○		
	イ. 身軽になってサイクリングを楽しむことができるサービスの提供	○	○		
2. 実効性を高める基盤づくり	(1)ICTを活用した新たなモビリティサービスの提供	ア. 観光型MaaSやAIオンデマンド交通等の新たなモビリティサービスの提供	○		
		イ. 交通・観光関連事業者のキャッシュレス決済の導入促進	○		
	(2)広域連携を強化する体制の構築	ア. 北後志地域を対象とした広域連携を強化する組織づくり	○		
	(3)新小樽(仮称)駅の交通結節点機能の向上	ア. 利便性の高い駅機能の確保	○		
		イ. 駅前広場等の整備	○		
	(4)移動円滑化の取組の推進	ア. バスの利便性向上の環境整備	○		
		イ. タクシーの利便性向上の環境整備	○		
		ウ. ユニバーサルデザイン等の導入の推進	○		
		エ. 駅前広場等の整備	○		
	3. 公共交通の利用促進と充実の好循環	(1)情報発信の強化	ア. 積極的な情報発信・PR	○	○
			イ. 新小樽(仮称)駅に向かう案内・サインの設置	○	
			ウ. 外国人対応の強化	○	
(2)公共交通の利用を促進するサービスの提供と魅力づけ		ア. 身軽になって観光を楽しむことができるサービスの提供	○		
		イ. 新小樽(仮称)と倶知安の周遊性を高めるサービスの検討	○		
		ウ. クルーズ船等との連携	○		
		エ. 地域連携等による魅力的なサービスの提供	○		
		オ. 魅力ある車両の導入	○		
(3)新小樽(仮称)駅周辺の魅力づくり		ア. 小樽のまちのイメージが伝わる駅舎や駅前デザインの検討	○		
		イ. 自然の豊かさや四季の移り変わりを感ずる景観形成	○		
	ウ. 新小樽(仮称)駅の立地特性を生かした魅力づくり	○			

	(4)移住・定住の促進	ア. 新駅周辺における住宅の整備促進	○	
		イ. 新幹線通勤・通学者の利用増加に向けた取組	○	
		ウ. 交通事業者の人材確保を兼ねた移住・定住促進策	○	

## II. ソフト対策 (全26の取組(案))

基本方針	項目	取組の概要(案)	部会		
			街並	観光	
1. 新幹線開業を契機とした個人観光客の誘致拡大	(1)小樽の文化・食資源を活用した多彩な個人観光客向けプログラムの開発	ア. 東北圏や青函圏等と連携した旅行商品の開発		○	
		イ. 北後志地域と連携した個人観光客向けプログラムの開発		○	
		ウ. 倶知安・ニセコと連携した個人観光客向けプログラムの開発		○	
		エ. 小樽市内の歴史や文化資源を広く活用した観光プログラムの開発		○	
		オ. 新幹線と飛行機を組み合わせた旅行商品の開発		○	
	(2)地域連携による効果的な旅行商品等の情報発信	ア. 北海道新幹線停車駅のある自治体との連携体制の構築		○	
		イ. 地域連携による旅行商品の幅広いPR		○	
		ウ. SNSやHP等の電子媒体を活用した情報発信		○	
	2. 新幹線開業を地域の活力に繋げる取組	(1)滞在時間・宿泊客の拡大を目指した取組	ア. 宿泊客拡大に向けた取組		○
			イ. 観光目的の多様化を踏まえた市内全域をフィールドとした観光資源の磨き上げ		○
(2)小樽の地域産業と観光産業の結びつき強化		ア. 小樽産食材の活用促進		○	
		イ. 小樽ならではの産業観光の推進		○	
		ウ. 地元産品を使用した「おもてなし弁当」などの検討、地域特性を生かした「スイーツセット」や「ちよい飲みセット」など気軽に新幹線車内で味わえる商品の開発		○	
		エ. 開業記念グッズの制作		○	
(3)観光入込の季節間の平準化に向けた取組推進		ア. 観光入込の平準化に向けた各種取組		○	
(4)中小事業者を中心とした外国人観光客への対応力強化		ア. 中小事業者を対象とした外国人観光客への対応力強化		○	
(5)企業立地の促進		ア. 新小樽(仮称)駅周辺における民間機能の誘導		○	
		イ. 新幹線開業を契機とした企業立地ニーズへの対応		○	
3. 新小樽(仮称)駅周辺の魅力づくり	(1)新小樽(仮称)駅を起点とした新たな観光プログラムの創造	ア. 奥沢水源地と勝納川の環境整備		○	
		イ. 奥沢水源地や周辺の自然環境を活用した観光ガイドプログラムの開発		○	
		ウ. 奥沢周辺の観光資源との連携		○	
4. 開業機運の醸成	(1)新幹線開業に向けた市民の意識醸成	ア. 新小樽(仮称)駅整備の見学会や出前講座の実施		○	
		イ. 開業までのカウントダウン		○	
		ウ. 開業に伴う市民の新幹線利用促進戦略の検討・実施		○	
	(2)開業機運を高めるイベントの実施	ア. 北海道新幹線停車駅や北後志地域が連携した開業イベントの実施		○	
		イ. 開業後のイベント実施		○	

## 基本方針1 利便性の高い2次交通網の構築

### (1) バス交通の充実

#### ■課題解決の方策（案）

- ❖課題1：バス乗務員不足による、既存路線の新駅経由、増便、路線増の困難
  - 新幹線のダイヤに合わせた既存路線のダイヤ調整（例：ICTを活用したバスダイヤ運行計画の検討）
  - 新駅～小樽駅（中心部経由）の自動運転バスの調査研究、実証実験の検討
- ❖課題2：バス事業者の乗務員不足による、新たな路線の設定が困難
  - 既存の周遊観光バスの新駅経由の検討
- ❖課題3：人口減少および利用者減少による、バス路線の見直しまたは廃線
  - バス事業者以外の事業者による観光地・宿泊地への移動手段の確保
- ❖課題4：新小樽（仮称）駅開通に伴う新幹線通勤者の出現
  - 新幹線通勤に合わせた乗り継ぎ利便性の向上
- ❖課題5：本州やニセコエリアから訪れる外国人観光客の増加
  - 外国人観光客に対応した観光案内、車輛の導入
- ❖新たな視点：小樽駅だけではなく、南小樽駅着のバスの検討
  - 新駅～南小樽駅の専用シャトルバスの運行

#### ■取組の概要（仮）

##### ア. 現在の路線バスの強化

- ・新小樽（仮称）駅と小樽駅を結ぶ現「奥沢線」について、新幹線のダイヤとバスの利用状況を踏まえ、既存路線のダイヤを調整します。（時刻の調整、直通バス、快速バスの検討等）
- ・運行ダイヤや自動運転バスの検討には、事業者の他に調査研究機関（大学等）とも連携します。
- ・地域住民の新幹線通勤を想定した朝夕に絞ったバス路線およびダイヤを検討します。

##### イ. 新駅と市内中心部を結ぶ専用シャトルバスの運行

- ・新小樽（仮称）駅と小樽駅または南小樽駅など、多くの利用が予想される区間について、専用シャトルバスの運行を検討します。
- ・シャトルバスは、メルヘン交差点やウイングベイ等の途中経由についても検討します。
- ・専用シャトルバスは、路線バスと区別できるよう、分かりやすい情報提供や案内表示を実施します。

##### ウ. 「おたる散策バス」の経由地への追加

- ・現在、中央バスが運営しているおたる散策バス3路線のうち、1路線程度について新小樽（仮称）駅経由のルートを検討します。
- ・新駅開業に向け、観光需要に応じたコースの見直しを行います。

##### エ. 新駅と朝里川温泉やスキー場を結ぶバス交通の確保

- ・朝里川温泉地域の宿泊事業者が共同で運行する送迎バスの導入を検討します。
- ・ニセコや札幌に滞在しながら多様なスキー場を楽しみたい外国人客等をターゲットとして想定し、冬季限定で新駅と天狗山スキー場や朝里川スキー場、キロロスキー場等を結ぶバスの運行を検討します。
- ・大きな荷物を抱えた外国人観光客が新駅を利用することが考えられることから、運行するバスは手荷物用の空間を多く確保できるよう工夫します。

**オ. 既存の路線バスの高速便の強化**

- ・新幹線の整備効果を北後志地域や岩宇地域等へ波及させるため、小樽駅を經由して北後志地域等まで向かう既存のバス路線を活用した高速便の増便を検討します。
- ・持続的な路線の維持を図るため、観光客の利用に加え、周辺住民の日常的な交通手段としての利用も促進します。

**カ. 団体バス利用者への対応**

- ・新小樽（仮称）駅を利用する修学旅行生や団体型観光ツアーへの対応に向け、団体バス乗り場の確保を行います。

**キ. 外国人観光客にも対応したバスの運行**

- ・外国人観光客がスムーズに利用できるよう、電子マネーやスマホ決済等のキャッシュレス決済の導入（例：決済機能付きタブレット）、ICTを活用した外国人観光客との円滑なコミュニケーションツール（例：ポケトーク）の導入を検討します。

**■スケジュール（仮）**

9年前	8年前	7年前	6年前	5年前	4年前	3年前	2年前	1年前	開業	開業後	
R3	R4	R5	R6	R7	R8	R9	R10	R11	R12	R13	R14～
2021	2022	2023	2024	2025	2026	2027	2028	2029	2030	2031	2032～
					2次交通の利用者ニーズ調査【市】						
							運行路線の検討【交通事業者】 運行支援【市】				
									実証運行【交通事業者】 利用状況を踏まえた 運行方法の改善【交通事業者】		

## (2) タクシーサービスの充実

### ■課題解決の方策（案）

- ❖ 課題 1：夜間帯に乗務員を確保できない、需要がわからない中でのタクシーを待機させるのは難しい
  - I o Tを活用した配車システムの導入可能性の確認
- ❖ 課題 2：旅行者に提示する料金の仕組みがない
  - 事前に運賃がわかる定額運賃の導入
- ❖ 課題 3：本州やニセコエリアから訪れる外国人観光客の増加
  - 外国人観光客に対応した観光案内、車輛の導入

### ■取組の概要（仮）

#### ア. 乗合タクシーの運行

- ・バスの最終便の後に新幹線が到着することを想定した小樽駅や朝里川温泉等へ向かう交通手段として、また新小樽（仮称）駅と北後志地域等の各町村を結ぶシャトル便として、乗合タクシー（ジャンボタクシーを想定）の運行を検討します。
- ・事前予約による運行を想定します。

#### イ. 外国人観光客にも対応した観光タクシーの運行

- ・新幹線開業に伴い、本州やニセコエリアからの外国人観光客など、大きな荷物を抱えた観光客の増加が想定されるため、ワゴンタクシーなど多荷物に対応できる大型車両の導入を検討します。
- ・観光客がスムーズに利用できるようなインターネットでの事前配車予約、電子マネーやスマホ決済等のキャッシュレス決済の導入（例：決済機能付きタブレット）、I C Tを活用した外国人観光客との円滑なコミュニケーションツール（例：ポケトーク）の導入を検討します。
- ・新小樽（仮称）駅から北後志地域等を周遊する観光タクシーの運行を検討するとともに、市内をはじめ、キロロや余市等の近郊または遠方までの定額運賃の導入を検討します。

#### ウ. I o Tを活用した配車システムの導入

- ・タクシー乗務員が減少する中、個々の目的地に向かう利用者ニーズに答えられるよう、ドライバーと利用者のマッチングや、目的地が近い者同士をマッチングする I o Tや配車アプリを活用できるシステムの導入を検討します。

### ■スケジュール（仮）

9年前	8年前	7年前	6年前	5年前	4年前	3年前	2年前	1年前	開業	開業後	
R3	R4	R5	R6	R7	R8	R9	R10	R11	R12	R13	R14～
2021	2022	2023	2024	2025	2026	2027	2028	2029	2030	2031	2032～
					取組事例の収集 【市】						
						運行体制の検討【交通事業者】 運行支援【市】					
									実証運行 【交通事業者】		
									利用状況を踏まえた 運行方法の改善 【交通事業者】		

### (3) レンタカーサービスの充実

#### ■課題解決の方策（案）

- ◆課題：レンタカー需要に備えた、レンタカー事業者の誘致やそのための環境整備
  - レンタカー事業者の誘致やそのための環境整備

#### ■取組の概要（仮）

##### ア. レンタカー事業者の誘致

- ・新駅周辺にレンタカー事業者を誘致します。
- ・誘致にあたっては、深夜帯にも利用できかつ無人で対応可能なセルフレンタカーも検討します。
- ・レンタカーを利用しやすいよう、駅からの動線や給油施設、電気自動車の充電スポット、駐車スペースの確保等を検討します。

##### イ. レンタカーによる周遊性の向上

- ・北後志地域等でレンタカーを利用できるよう、各地で貸し出し・返却できるよう営業所のない市町村における営業所の設置（セルフレンタカーを想定）を推進します。
- ・倶知安駅から借りて新小樽（仮称）駅で乗り捨て料金はかからないようにするなど、北後志地域等の周遊性を向上させるレンタカーの利用し易い方法を検討します。
- ・レンタカー利用者への北後志地域等における観光施設等の特典サービスの提供について検討します。
- ・市内の周遊性を高めるために、南小樽駅や小樽築港駅、小樽港第3号ふ頭周辺等にレンタカー拠点の設置を検討します。
- ・市内中心部の駐車場の空き状況をリアルタイムに提供するなど、レンタカー利用者の利便性を図ります。
- ・セルフレンタカーの設置が決まった場合、夜間割引サービスの検討を行います。

#### ■スケジュール（仮）

9年前	8年前	7年前	6年前	5年前	4年前	3年前	2年前	1年前	開業	開業後	
R3	R4	R5	R6	R7	R8	R9	R10	R11	R12	R13	R14～
2021	2022	2023	2024	2025	2026	2027	2028	2029	2030	2031	2032～
					レンタカー事業者誘致に向けた 用地の検討・確保【市】						
							レンタカー事業者の誘致 【市、レンタカー事業者】				
							近隣エリア等と連携したレンタカーの 利用拡大に向けた取組の推進 【広域的な連携組織、市、レンタカー事業者】				



## 基本方針2 実効性を高める基盤づくり

### (1) ICTを活用した新たなモビリティサービスの提供

#### ■課題解決の方策（案）

- ❖課題：乗務員の減少による公共交通機関の縮小・廃線が進む一方、求められる観光客・住民の移動手段
- 北後志地域における観光型MaaSやAIオンデマンド交通\*等の新たなモビリティサービスの提供
- ※AIオンデマンド交通…人工知能を活用し、効率的に利用者が事前予約した公共交通を配車するシステム。

#### ■取組の概要（仮）

##### ア. 観光型MaaSやAIオンデマンド交通等の新たなモビリティサービスの提供

- ・北後志地域内を観光するには、複数の公共交通機関を利用する可能性が考えられるため、MaaSのような出発地から目的地までの移動を1つのサービスとして提供できるアプリサービスの実証実験や配信を検討します。

##### イ. 交通・観光関連事業者のキャッシュレス決済の導入促進

- ・キャッシュレス決済が定着している外国人観光客への対応力向上や観光型MaaSを広く展開できるよう、交通・観光関連事業者のキャッシュレス決済の導入促進を図ります。

#### ■スケジュール（仮）

9年前	8年前	7年前	6年前	5年前	4年前	3年前	2年前	1年前	開業	開業後	
R3	R4	R5	R6	R7	R8	R9	R10	R11	R12	R13	R14～
2021	2022	2023	2024	2025	2026	2027	2028	2029	2030	2031	2032～
	<b>MaaSの研究、実証実験等</b> 【市、交通事業者】										
					<b>広域連携を強化する組織での 2次交通サービスの提供に向けた協議</b> 【広域的な連携組織、交通事業者】						
										<b>サービスの試行</b> 【交通事業者】	
										<b>利用状況を踏まえた サービス内容の改善</b> 【交通事業者】	

## (2) 広域連携を強化する体制の構築

### ■課題解決の方策（案）

- ❖ 課題：開業後に広域連携を行える体制を構築することが重要
  - 北後志地域を対象とした広域連携を強化する組織づくり

### ■取組の概要（仮）

#### ア. 北後志地域を対象とした広域連携を強化する組織づくり

- ・ 新幹線開業後に、新駅から北後志地域間を周遊する観光客を対象に、利便性の高い2次交通を提供できるよう、具体的な取組を検討する組織（（仮）新小樽駅利用促進協議会）を構築します。
- ・ 協議会においては、小樽を含めた北後志地域を周遊できる1日フリーパスの導入について協議など、利用促進に向けた旅行商品の開発や地域が連携した移動手段の情報発信・PRの検討等を行います。

### ■スケジュール（仮）

9年前	8年前	7年前	6年前	5年前	4年前	3年前	2年前	1年前	開業	開業後	
R3	R4	R5	R6	R7	R8	R9	R10	R11	R12	R13	R14～
2021	2022	2023	2024	2025	2026	2027	2028	2029	2030	2031	2032～
		広域連携を強化する組織の構築 【周辺自治体、観光協会】									
					広域連携を強化する組織での 2次交通サービスの提供に向けた協議 【広域的な連携組織、交通事業者】						
									開業後の利用促進に向けた取り組みの展開 【広域的な連携組織、交通事業者】		



## (4) 移動円滑化の取組の推進

### ■課題解決の方策（案）

- ❖ 課題1：新小樽（仮称）駅開通に伴う新幹線通勤者の出現
  - 新幹線通勤に合わせた乗り継ぎ利便性の向上
- ❖ 課題2：住民、鉄道運輸機構、北海道、市との意見の調整
  - 関係機関向けの要望をまとめる
- ❖ 課題3：路線増・増便、既存路線の新駅経由の困難
  - 乗り継ぎ利便性の向上

### ■取組の概要（仮）

#### ア. バスの利便性向上の環境整備

- ・既存バス路線における乗り継ぎ拠点の設定や待合所の整備、バスロケーションシステムの活用など、バスを利用しやすい環境づくりを検討します。

#### イ. タクシーの利便性向上の環境整備

- ・タクシー乗り場まで円滑に移動できるよう、分かりやすい動線計画、サインの設置を整備主体へ要望します。
- ・また、タクシー乗り場にタクシーがない場合にすぐ利用できるよう、ドライバーと利用者のマッチングや、目的地が近い者同士をマッチングするI o Tや配車アプリを活用できるシステムの導入を検討します。（一部再掲）

#### ウ. ユニバーサルデザイン等の導入の推進

- ・公共施設をはじめ、各鉄道駅やバス待合所、観光施設など、まち全体でユニバーサルデザインの導入を推進します。
- ・バスについては低床車両の導入を推進します。

#### エ. 駅前広場等の整備

- ・駅前広場及び駐車場についての要望（例：バリアフリーの確保、行き先方面別のバス停留所の設定、景観形成など）をまとめ、整備主体へ要望します。（再掲）

### ■スケジュール（仮）

9年前	8年前	7年前	6年前	5年前	4年前	3年前	2年前	1年前	開業	開業後	
R3	R4	R5	R6	R7	R8	R9	R10	R11	R12	R13	R14～
2021	2022	2023	2024	2025	2026	2027	2028	2029	2030	2031	2032～
駅前広場の整備に関する協議 【市、道】											
			駅前広場の設計、工事 【道、市】								
			既存バス路線における乗り継ぎ拠点の設定等の検討 【交通事業者、市】								



## (2) 公共交通の利用を促進するサービスの提供と魅力づけ

### ■課題解決の方策（案）

- ❖課題1：公共交通を支える地域人口が減少する中で一定の利便性を確保する必要がある
  - インバウンド客を含めた新幹線利用客の公共交通の利用促進
- ❖課題2：公共交通の機能向上により新小樽（仮称）駅の拠点性を向上する必要がある
  - 広域的な移動手段や周遊性の向上促進

### ■取組の概要（仮）

#### ア. 身軽になって観光を楽しむことができるサービスの提供

- ・新小樽（仮称）駅から宿泊施設へ荷物を運ぶ宅配サービスの導入や、大型のロッカーや保冷機能が付いたロッカーの設置など、身軽になって観光を楽しむことができるサービスの提供を検討します。（再掲）

#### イ. 新小樽（仮称）と倶知安の周遊性を高めるサービスの検討

- ・新小樽（仮称）駅と倶知安駅間の連携を強化し、それぞれの市町に来訪・滞在している観光客が新幹線で気軽に往来でき、両地域の取組が相乗効果を生みだすことができるよう、周遊性を高める乗車券・料金サービスの提供など、利便性を高めるサービスの導入を検討します。
- ・例えば、倶知安のラグジュアリーホテル宿泊者を対象とした、新幹線とタクシーを活用した「贅沢昼食プラン」、「夜の小樽満喫プラン」等を検討します。

#### ウ. クルーズ船等との連携

- ・小樽港に寄港したクルーズ船客を対象に、寄港後の自由時間に新幹線を活用したニセコや札幌方面へのオプションルツアーを造成し、寄港地としての魅力増大を図ります。

#### エ. 地域連携等による魅力的なサービスの提供

- ・観光施設等と公共交通が連携し、バスチケットと観光施設の特典や入場料金の割引が一体となったバスパックの販売を検討します。
- ・観光施設の割引クーポンがついた、小樽市内や北後志フリーパスの導入などを検討します。
- ・新小樽（仮称）駅開業により定山溪温泉の宿泊者が新駅を利用する可能性が考えられるため、定山溪温泉と朝里川温泉や積丹の温泉地などを巡るお得な湯めぐりクーポン等を検討します。

#### オ. 魅力ある車両の導入

- ・レトロバスやラッピングバスの運行など、魅力ある車両を導入し、バスに乗ること自体の魅力づけを検討します。

### ■スケジュール（仮）

9年前	8年前	7年前	6年前	5年前	4年前	3年前	2年前	1年前	開業	開業後	
R3	R4	R5	R6	R7	R8	R9	R10	R11	R12	R13	R14～
2021	2022	2023	2024	2025	2026	2027	2028	2029	2030	2031	2032～
					取組事例の収集 【市】						
						サービスやオプションルツアーの検討 【市、JR、旅行会社】					
						車両導入の検討【市、バス会社】					
									実証実験 【市、JR、旅行会社】		
									利用状況を踏まえた サービス提供方法の改善 【市、JR、旅行会社】		

### (3) 新小樽(仮称)駅周辺の魅力づくり

#### ■課題解決の方策(案)

❖ 新たな視点：小樽のまちのイメージと一体となった新駅とするためには、ノスタルジックな風景が残る小樽市ならではの特色にあった景観にする必要がある。

○小樽市のまちなみや歴史に調和した景観づくり

#### ■取組の概要(仮)

##### ア. 小樽のまちのイメージが伝わる駅舎や駅前デザインの検討

- ・まちづくり計画のデザイン方針に基づいた駅舎デザインとなるよう取り組みます。
- ・来訪者の小樽の街並みの第一印象となる新駅前の道道の良好な景観形成について、整備主体へ要望します。

##### イ. 自然の豊かさや四季の移り変わりを感じる景観形成

- ・中心市街地や、新小樽(仮称)駅周辺地域から各観光スポットへ向かう際のアクセスルートにおいて、市民や小樽市の事業者が協働して、オープンガーデンの取組の検討や、プランター設置による花と緑の創出、アート作品の展示、市内の各種イベントとの連携について検討し、自然の豊かさや四季の移り変わりを感じる景観形成を図ります。

##### ウ. 新小樽(仮称)駅の立地特性を生かした魅力づくり

- ・新駅利用者が自然に親しめるよう、勝納川の親水機能の整備及び駅前広場との接続について要望をまとめ、整備主体へ要望します。

#### ■スケジュール(仮)

9年前	8年前	7年前	6年前	5年前	4年前	3年前	2年前	1年前	開業	開業後	
R3	R4	R5	R6	R7	R8	R9	R10	R11	R12	R13	R14~
2021	2022	2023	2024	2025	2026	2027	2028	2029	2030	2031	2032~
		駅前広場の整備に関する協議 【市、道】									
		駅舎デザインの検討・選定 【市、JRTT】									
				駅部建築等の設計・工事 【JRTT】							

## (4) 移住・定住の促進

### ■課題解決の方策（案）

- ❖ 課題：交通事業者の人材確保の困難、労働力の流出を防ぐ必要がある
  - 交通事業者の人材確保を兼ねた移住・定住促進策
- ❖ 新たな視点：新幹線開業によって向上する通勤・通学の利便性を生かしたまちづくりが必要
  - 新駅周辺における住宅の整備促進
  - 通勤・通学利便性の向上

### ■取組の概要（仮）

#### ア. 新駅周辺における住宅の整備促進

- ・新幹線を利用しやすい新駅周辺地域における定住人口確保のため、公営住宅の整備やマンションの誘致を検討するとともに、増加が予想される空き家・空き地の活用促進を図ります。

#### イ. 新幹線通勤・通学者の利用増加に向けた取組

- ・札幌への通勤・通学を考慮した新幹線ダイヤの設定について、JR北海道へ要望します。
- ・新幹線を活用した通勤・通学者を増やすために、通勤・通学の定期代補助制度を検討します。
- ・ビジネス客を想定した移住相談会といった誘致活動を行います。
- ・新幹線通勤・通学者の利用を想定したパークアンドライド駐車場の活用や新駅周辺の民間月極駐車場の誘導を検討します。

#### ウ. 交通事業者の人材確保を兼ねた移住・定住促進策

- ・交通事業者の人材確保を兼ねた移住・定住促進策（企業PR、職種を絞った移住支援金、労働環境改善策の研究など）について検討します。

### ■スケジュール（仮）

9年前	8年前	7年前	6年前	5年前	4年前	3年前	2年前	1年前	開業	開業後	
R3	R4	R5	R6	R7	R8	R9	R10	R11	R12	R13	R14～
2021	2022	2023	2024	2025	2026	2027	2028	2029	2030	2031	2032～
公営住宅整備の検討 【市】											
				移住・定住に向けて活用可能な空き家・土地の調査 【市】							
				新幹線ダイヤの設定への要望 【市、JR】							
				新幹線開業を見据えた移住・定住促進のPR 【市、不動産所有者など】							

## II. ソフト対策

### 基本方針1 新幹線開業を契機とした個人観光客の誘致拡大

#### (1) 小樽の文化・食資源を活用した多彩な個人観光客向けプログラムの開発

##### ■課題解決の方策（案）

- ❖ 課題1：新幹線開業により、より一層個人観光客の比率が増加することが予想される
  - 新幹線開業後に増加が見込まれる顧客層（シニア層、外国人観光客）を意識した商品開発の検討
- ❖ 課題2：新幹線駅は広域的な周遊客の拠点になることが想定される
  - 小樽市内だけでなく北後志や定山溪温泉など広域的な玄関口としての機能向上
- ❖ 課題3：観光市場の構造変化に対応していくとともに、小樽運河や堺町に集中する観光客を分散する必要がある
  - 小樽市内の歴史・文化資源を活用した個人客向け観光の推進
  - 市内全域をフィールドとした観光振興の推進

##### ■取組の概要（仮）

###### ア. 東北圏や青函圏等と連携した旅行商品の開発

- ・新小樽（仮称）駅の開業に伴い、本州からの観光客の増加が考えられます。特に、東北ー北海道の移動時間が短縮されることで東北新幹線の沿線自治体と連携した旅行商品（例：小樽・塩釜寿司のまち周遊プラン等）の開発を検討します。
- ・平成30年に北前船寄港地・船主集落が日本遺産に認定されていることから、南北海道（函館市・松前町・江差町）と連携した、新幹線や在来線を活用した北前船に関連した旅行商品の開発を検討します。他にも、日本遺産に認定されている炭鉄港について、道内で認定されている室蘭市、夕張市、岩見沢市等と連携した炭鉄港を巡る旅行商品についても検討します。

###### イ. 北後志地域と連携した個人観光客向けプログラムの開発

- ・新小樽（仮称）駅を起点として、駅勢圏のエリアが連携して個人観光客をターゲットとした各種取組を進めていきます。具体的には、北後志地域が広域的に連携し、新小樽（仮称）駅を起点とし、小樽市や余市、積丹、キロロ等の北後志地域の特色を活かした観光プログラム（例：ワイナリーやウイスキー工場、果樹園、観光船などを活用したツアーやカヌー、登山、トレッキングなど、地域の資源を活用した着地型旅行商品）を開発します。
- ・他にも、小樽に寄港するクルーズ船（セレブリティ・ミレニアムやダイヤモンド・プリンセス等）と新幹線で巡るツアーを検討します。
- ・商品の開発・プロモーションにあたっては、新小樽（仮称）駅の利便性を広くPRするために、国内外のインフルエンサーを招聘したファミツアーやプログラムの改善等を進めます。

###### ウ. 倶知安・ニセコと連携した個人観光客向けプログラムの開発

- ・倶知安町やニセコに訪れる個人観光客を対象に、小樽市で昼食または夕食を食べられるような観光プログラムを検討します。

###### エ. 小樽市内の歴史や文化資源を広く活用した観光プログラムの開発

- ・運河周辺エリアに集中する観光客の流れを市内全体へ分散させるとともに、長期間市内に滞在できるような観光プログラム（例：小樽の市域全体を舞台とした地域資源を活用した小樽ならではの商品プログラムの開発（ストーリー付け、ガイドの育成等））を検討します。
- ・多様な商品プログラムの開発だけでなく、流通・持続させるための仕掛け（長崎さるく博のような短期集中型イベント、個人客を意識したSNS中心のPR戦略、ゲストハウスを起点とした着地型商品の販売戦略等）についても検討を進めます。

### オ. 新幹線と飛行機を組み合わせた旅行商品の開発

- 本州方面からの小樽市までの移動手段として、新幹線と飛行機を組み合わせるケースも考えられます（例：行きは新千歳空港または函館空港とJRを使い、帰りは新幹線のみを使う）。このため、多様な空港の組み合わせによる旅行商品の開発を検討します。

### ■スケジュール（案）

9年前	8年前	7年前	6年前	5年前	4年前	3年前	2年前	1年前	開業	開業後	
R3	R4	R5	R6	R7	R8	R9	R10	R11	R12	R13	R14～
2021	2022	2023	2024	2025	2026	2027	2028	2029	2030	2031	2032～
					<b>広域連携を強化する組織での 旅行商品の検討、開発</b> 【広域的な連携組織、観光協会、旅行事業者】						
					<b>旅行商品の モニターツアーの実施</b> 【広域的な連携組織、観光協会、旅行事業者】						
					<b>旅行商品の改善</b> 【広域的な連携組織、観光協会、旅行事業者】						

## (2) 地域連携による効果的な旅行商品等の情報発信

### ■課題解決の方策（案）

- ❖ 課題1：新たな観光客を誘客するには、小樽市単独ではなく、北海道新幹線停車駅のある自治体（札幌市や倶知安町等）と連携する必要がある。
  - 北海道新幹線近隣駅との連携体制の構築
- ❖ 課題2：情報発信ツールの紙媒体から電子媒体への移行
  - SNS やHP 等の電子媒体を活用した情報発信

### ■取組の概要（仮）

#### ア. 北海道新幹線停車駅のある自治体との連携体制の構築

- ・北関東、東北方面からの観光客や海外の観光客を呼び込むために、北海道新幹線停車駅のある自治体（札幌市や倶知安町等）が一体化してPRを行える体制を構築します。

#### イ. 地域連携による旅行商品の幅広いPR

- ・基本方針1（1）の取組で検討した旅行商品について、今以上に外国人観光客を誘致すべく海外旅行博といった海外向けのイベントへの出展を検討します。イベントに出展する際には、北海道新幹線停車駅のある自治体とも連携します。

#### ウ. SNSやHP等の電子媒体を活用した情報発信

- ・近年の個人観光旅行客の行動変化を踏まえ、積極的なSNSやHP等の電子媒体を中心とした情報発信戦略を推進します。
- ・また、多言語での観光情報の提供も積極的に進めるとともに、観光地や飲食施設でのフリーWi-Fiの整備も進めていきます。

### ■スケジュール（案）

9年前	8年前	7年前	6年前	5年前	4年前	3年前	2年前	1年前	開業	開業後	
R3	R4	R5	R6	R7	R8	R9	R10	R11	R12	R13	R14～
2021	2022	2023	2024	2025	2026	2027	2028	2029	2030	2031	2032～
							情報発信の方法の決定 【観光協会】				
								情報発信の方法の試行 【観光協会】			
										継続的な情報発信 【観光協会】	
						フリーWi-Fiの整備 【地域内の事業者】					
			北海道新幹線停車駅のある自治体との連携構築 【市、観光協会、札幌市や倶知安町等】								
							旅行商品や観光向けプログラムのPR 【広域的な連携組織、観光協会】				

## 基本方針2 新幹線開業を地域の活力に繋げる取組

### (1) 滞在時間・宿泊客の拡大を目指した取組

#### ■課題解決の方策（案）

- ❖ 課題1：観光客の増加を市内の経済の活性化や雇用創出につなげることが必要
  - 消費単価の高い宿泊客の拡大を目指した取組の推進
- ❖ 課題2：一層の観光振興のためには滞在時間の延長を図る必要がある
  - 小樽市内全域を周遊できるような観光資源の磨き上げ

#### ■取組の概要（仮）

##### ア. 宿泊客拡大に向けた取組

- ・新幹線の開業効果を最大限に生かすため、日帰り客と比較して消費額が多い宿泊客拡大に向けた取組を進めていきます。具体的には、歴史的建造物等を活用したリノベーションによる宿泊施設の整備やゲストハウス開業の支援などを検討するほか、深夜や早朝の観光プログラム（早朝の漁港見学ツアー、レトロ酒場巡りなど）などについても検討を行います。
- ・朝里川温泉について、宿泊拠点としての滞在力強化に向けた取組を検討します。

##### イ. 観光目的の多様化を踏まえた市内全域をフィールドとした観光資源の磨き上げ

- ・小樽運河周辺に集中する観光客を分散するとともに、小樽での滞在時間を延ばすため、市内各地の観光資源の磨き上げを検討します。具体的には、小樽の特色のある産業群をテーマにした産業観光の深化について検討するとともに、小樽の食文化を見える化するための取組（小樽フェノロジーカレンダー（食の歳時記）づくりなど）、各種ロケ地等聖地巡礼のためのマップづくり（小説、マンガ、映画など）などを検討します。

#### ■スケジュール（案）

9年前	8年前	7年前	6年前	5年前	4年前	3年前	2年前	1年前	開業	開業後	
R3	R4	R5	R6	R7	R8	R9	R10	R11	R12	R13	R14～
2021	2022	2023	2024	2025	2026	2027	2028	2029	2030	2031	2032～
宿泊客拡大に向けた方針検討 【宿泊業者、観光業者】											
			宿泊客拡大に向けた具体的な取組の展開 【宿泊業者、観光業者】								

## (2) 小樽の地域産業と観光産業の結びつき強化

### ■課題解決の方策（案）

- ❖ 課題1：観光の効果を市内の多様な産業群に波及させることが必要
  - 水産業や水産加工業、製造業など市内に集積する多様な産業群の観光との結びつき強化促進
- ❖ 課題2：観光の認知度を小樽市としてのブランド力向上に活かすことが必要
  - 海外への展開も踏まえた市内産業の認知度の向上促進

### ■取組の概要（仮）

#### ア. 小樽産食材の活用促進

- ・小樽市内で水揚げされる水産物や市内で加工される食品を観光需要と積極的に結びつけます。
- ・市内の水産物の旬と合わせたキャンペーンの展開を図るほか、小樽産の水産練り製品を活用したテイクアウトグルメの開発などを検討していきます。
- ・また、餅店や菓子製造など小樽の歴史や文化をバックグラウンドとした業態について、積極的なPR展開を図ることによって新たな観光資源化を進めていきます。

#### イ. 小樽ならではの産業観光の推進

- ・伝統的な産業を観光需要に結びつけたガラス産業をモデルに、小樽市内に集積している多様な産業群を活用した産業観光を推進します。

#### ウ. 地元産品を使用した「おもてなし弁当」などの検討、地域特性を生かした「スイーツセット」や「ちよい飲みセット」など気軽に新幹線車内で味わえる商品の開発

- ・地元の食材を使用した「おもてなし弁当」などの検討や、新幹線車内で自分用に楽しむお土産として、複数のメーカーの商品をセットにした「小樽スイーツセット」、日本酒やワイン、ビール、ウイスキーが製造されている特性を生かし地元食材と組み合わせた「ちよい飲みセット」の開発など、地域の食資源を生かした魅力ある商品開発を推進します。

#### エ. 開業記念グッズの制作

- ・小樽のものづくりの技術を生かした開業記念グッズなどの制作や地域の産業に結び付いた土産品の可能性についても検討します。

### ■スケジュール（案）

9年前	8年前	7年前	6年前	5年前	4年前	3年前	2年前	1年前	開業	開業後	
R3	R4	R5	R6	R7	R8	R9	R10	R11	R12	R13	R14～
2021	2022	2023	2024	2025	2026	2027	2028	2029	2030	2031	2032～
小樽産食材の活用方針の検討 【産業】											
			活用方針に基づく産業観光の具体的な取組の展開 【産業】								
			商品開発の検討 【産業】								
									商品開発の制作、販売 【産業】		

### (3) 観光入込の季節間の平準化に向けた取組推進

#### ■課題解決の方策（案）

- ❖ 課題：魅力ある観光産業づくりに向けて一層の収益力の強化や生産性の向上を図る必要がある  
○ 季節変動の平準化を進め、安定的な雇用の実現や生産性向上を推進

#### ■取組の概要（仮）

##### ア. 観光入込の季節間の平準化に向けた各種取組

- ・ 観光従事者の雇用安定化や観光事業者の収益性の向上を目指し、観光入込の平準化に向けた各種取組を推進します。具体的には入込が落ち込む時期（春季・秋季）において、小樽や北後志の旬の味をテーマにしたキャンペーンを進めます。
- ・ 季節間の平準化に向け、需要の少ない閑散期に多くの集客をもたらすような取組を検討します（例：博物館や文学館と連携した取組等）。

#### ■スケジュール（案）

9年前	8年前	7年前	6年前	5年前	4年前	3年前	2年前	1年前	開業	開業後	
R3	R4	R5	R6	R7	R8	R9	R10	R11	R12	R13	R14～
2021	2022	2023	2024	2025	2026	2027	2028	2029	2030	2031	2032～
観光入込の季節間の平準化に向けた取組み方針検討 【観光協会、観光業者】											
			観光入込の季節間の平準化に向けた具体的な取組の展開 【観光協会、観光業者】								

## (4) 中小事業者を中心とした外国人観光客への対応力強化

### ■課題解決の方策（案）

新たな視点：外国人観光客の来訪先が主要観光地だけではなく個人事業主の飲食店等幅広くなる可能性がある

○中小事業者を対象とした外国人観光客への対応力強化

### ■取組の概要（仮）

#### ア. 中小事業者を対象とした外国人観光客への対応力強化

- ・市内の各市場をはじめ小規模事業者において、インバウンド需要を積極的に取り入れるための各種支援を強化します。具体的には、決済手段の多様化への支援のほか、多言語対応のための指差し会話集の作成・配布、ポケトーク等のコミュニケーションツールの導入の検討、おもてなし講習会の開催などについて検討していきます。

### ■スケジュール（案）

9年前	8年前	7年前	6年前	5年前	4年前	3年前	2年前	1年前	開業	開業後	
R3	R4	R5	R6	R7	R8	R9	R10	R11	R12	R13	R14～
2021	2022	2023	2024	2025	2026	2027	2028	2029	2030	2031	2032～
年度毎に重点的な業種を選定し、徐々に外国人観光客への対応を拡大する 【中小事業者】											

## (5) 企業立地の促進

### ■課題解決の方策（案）

- ❖ 課題：新駅周辺の土地情報の整理が必要
  - 土地情報の収集、事業用地確保の検討
- ❖ 課題：新駅の場所及び客流量(利用者数)の推計から、新駅利用者等を対象とした事業は採算性が厳しいことが予想される
  - 誘導する機能（業種）の絞り込み及び立地支援策の検討
- ❖ 課題：新幹線開業により、市外の企業が進出する可能性がある
  - 新幹線開業を契機とした企業立地のニーズ把握とニーズに応じた支援策の検討

### ■取組の概要（仮）

#### ア. 新小樽（仮称）駅周辺における民間機能の誘導

- ・ 利便機能誘導ゾーン等における空き地など土地情報の収集や、高架下の活用など事業用地の確保を検討します。
- ・ レンタカーなど、新幹線利用者の利便性向上に必要な、優先的に誘導すべき機能（業種）を絞り込むとともに、誘致及び継続的な事業の実施に必要な支援策を検討します。

#### イ. 新幹線開業を契機とした企業立地ニーズへの対応

- ・ 新幹線開業による通勤・出張等のアクセス向上を契機とした、サテライトオフィスのような新たな形態も含め、様々な企業立地の可能性を探るとともに、事業用地や空きオフィスの情報提供等、ニーズに応じた支援策を検討します。

### ■スケジュール（案）

9年前	8年前	7年前	6年前	5年前	4年前	3年前	2年前	1年前	開業	開業後		
R3	R4	R5	R6	R7	R8	R9	R10	R11	R12	R13	R14～	
2021	2022	2023	2024	2025	2026	2027	2028	2029	2030	2031	2032～	
			新小樽(仮称)駅周辺における民間機能の誘導 【市】									
							新幹線開業を契機とした企業立地ニーズへの対応 【市】					

## 基本方針3 新小樽（仮称）駅周辺の魅力づくり

### （1）新小樽（仮称）駅を起点とした新たな観光プログラムの創造

#### ■課題解決の方策（案）

- ❖課題：新小樽（仮称）駅周辺の魅力を向上させていく必要がある  
○奥沢水源地や周辺の工場などを活用した観光プログラムの検討

#### ■取組の概要（仮）

##### ア. 奥沢水源地と勝納川環境整備

- ・新小樽（仮称）駅周辺地域の自然を活用するための環境整備として、「奥沢水源地保存・活用基本構想」に基づき、奥沢水源地の散策路や広場等の整備に向け検討を進めるとともに、勝納川の親水機能の整備を整備主体へ要望します。（一部再掲）

##### イ. 奥沢水源地や周辺の自然環境を活用した観光ガイドプログラムの開発

- ・奥沢水源地や穴滝などの自然環境を活用した観光ガイドプログラムを開発します。
- ・プログラム開発に向けては、ガイドの育成や参加者が利用しやすい料金の設定、ゲストハウスと連携した多様な予約方法など持続的な活用が可能なよう工夫します。

##### ウ. 奥沢周辺の観光資源との連携

- ・奥沢周辺に集積するゴム産業を活用した産業観光について検討するとともに、ワイン工場や天狗山など新小樽（仮称）からアクセスしやすい観光資源と連携した観光プログラム（新駅からのタクシー送迎プラン等）を検討します。

#### ■スケジュール（案）

9年前	8年前	7年前	6年前	5年前	4年前	3年前	2年前	1年前	開業	開業後		
R3	R4	R5	R6	R7	R8	R9	R10	R11	R12	R13	R14～	
2021	2022	2023	2024	2025	2026	2027	2028	2029	2030	2031	2032～	
		奥沢水源地保存・活用基本構想の具体化及び財源の検討 【市】										
			観光ガイドプログラムの開発 【観光協会、観光事業者】									
					観光ガイドプログラムの試行・改善 【観光協会、観光事業者】							
									本格展開 【観光協会等】			

## 基本方針4 開業機運の醸成

### (1) 新幹線開業に向けた市民の意識醸成

#### ■課題解決の方策（案）

- ❖課題：停車本数の拡大に向け開業後の市民利用を促進していく必要がある
- 新幹線開業に関する市民の意識を高める多様な取組の展開

#### ■取組の概要（仮）

##### ア. 新小樽（仮称）駅整備の見学会や出前講座の実施

- ・開業が迫っていることを市民に実感してもらうために、北海道新幹線の沿線自治体と連携し、車輛撮影会や試乗イベントを開催します。また、市民の参加意識を高めるために、新幹線開業の出前講座を行います。

##### イ. 開業までのカウントダウン

- ・小樽駅や市役所庁舎内に、新幹線開業までのカウントダウンボードを設置し、市民の期待感を高めま
- す。
- ・市民以外の人への告知も兼ね、小樽市のHPや小樽市観光協会のHPのトップページにも新幹線開業までのカウントダウンカウンターを載せます。

##### ウ. 開業に伴う市民の新幹線利用促進戦略の検討・実施

- ・市民の新幹線開業の意識を高めるために、市民の新幹線利用を促す戦略（例：新幹線通勤者への駐車料金や通勤費の補助等）を検討・実施します。

#### ■スケジュール（案）

9年前	8年前	7年前	6年前	5年前	4年前	3年前	2年前	1年前	開業	開業後		
R3	R4	R5	R6	R7	R8	R9	R10	R11	R12	R13	R14～	
2021	2022	2023	2024	2025	2026	2027	2028	2029	2030	2031	2032～	
							開業までのカウントダウン 【市、JR】					
	新幹線利用促進戦略の検討 【市】											
		新幹線利用促進戦略のPR、実施 【市】										
							新幹線駅整備の見学会や出前講座の実施 【市、JR】					

## (2) 開業機運を高めるイベントの実施

### ■課題解決の方策（案）

- ❖ 課題：開業機運の醸成に向けた取組を進める必要がある
  - 北海道新幹線停車駅のある自治体や北後志地域が連携したイベント等の展開

### ■取組の概要（仮）

#### ア. 北海道新幹線停車駅のある自治体や北後志地域が連携した開業イベントの実施

- ・新幹線開業後のにぎわいを創出するには、小樽市だけではなく、北海道新幹線停車駅のある自治体や北後志地域全体で開業機運を高めることが重要です。北後志地域を対象とした広域連携を強化する組織において、どのような連携をするか検討します（例：各地域の既存イベントで新幹線開業のブースや告知を行う、各地域の駅舎に開業まであと〇日を掲載する等）。

#### イ. 開業後のイベント実施

- ・新幹線開業以降も市民が新幹線を意識してもらえるよう、北後志地域を対象とした広域連携を強化する組織において周年イベントを開催します。なお、小樽市全体が盛り上がるよう、小樽市で開催されるおたる潮まつりや小樽雪あかりの路等のイベントに合わせて開催します。

### ■スケジュール（案）

9年前	8年前	7年前	6年前	5年前	4年前	3年前	2年前	1年前	開業	開業後	
R3	R4	R5	R6	R7	R8	R9	R10	R11	R12	R13	R14～
2021	2022	2023	2024	2025	2026	2027	2028	2029	2030	2031	2032～
					<b>広域連携を強化する組織での 開業イベントの検討</b> 【広域的な連携組織、観光協会】						
									<b>開業イベント等の実施</b> 【実施団体】		

## アクションプランの推進と進捗管理

アクションプランの各取組について、各事業主体が確実に推進するとともに、本協議会にて進捗管理を行います。

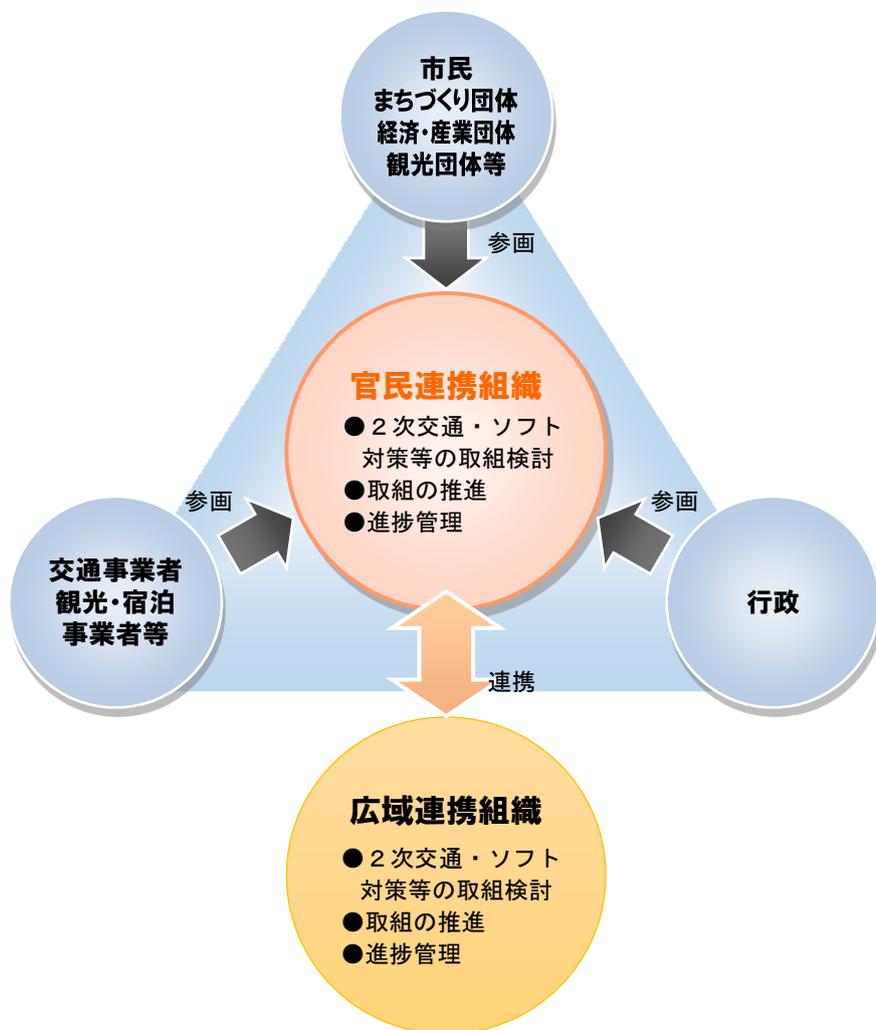


図. アクションプランの推進体制（まちづくり計画より）